佐治漆の衰退要因と復興を実現するための条件についての考察

山根京子　石橋優実　広富愛奈（鳥取県立鳥取西高等学校人文科学部　２年）

キーワード：漆（佐治漆），伝統継承，後継者問題，漆掻き，漆器，田畑地続全図

１．はじめに

輪島の漆器や浄法寺漆が有名であるが、鳥取県鳥取市佐治町にも地域固有の遺伝子をもつ佐治漆が存在している（橋谷田:2016）。佐治漆は1965年を境に漆液生産が停止し、現在は佐治漆研究会が佐治漆の復興に励んでいる。しかし、佐治漆は鳥取市のみならず佐治町内でもあまり注目されていない。本研究では、元漆掻きと現役の塗師から聞き取り調査を行うとともに、鳥取県立博物館所蔵の佐治町内の古絵図を分析し、佐治漆の衰退要因を明らかにする。佐治漆の最大の衰退要因は漆掻きの消滅であると考えられる。また能登、浄法寺と佐治の漆液生産を比較する。このような調査を通して、佐治漆の復興が実現するための条件を考察したい。

２．研究の方法

佐治漆産業の歴史と漆産業の継承問題について文献調査を行い、歴史的背景から現在の問題の原因 を探る。また、塗師のH氏や元漆掻き職人のN氏など、佐治漆産業に関わる方々に聞き取り調査を行い、現在の職人の継承状況についてまとめる。さらに、他地域（石川県、岩手県）の漆職人への 聞き取り調査を再分析し、佐治の漆産業と比較することで、佐治漆産業の衰退の特徴を明らかにする。

３．研究の結果

（１）漆掻きの歴史

漆掻きへの聞き取りを行った（表１）。個人事業主としての漆掻きは、教職と漆掻きの仕事を兼業した例もある。自ら採取した漆を県外まで販売に行く者もいた。栃木県日光まで父親と共に夜行汽車で、漆桶を下げて運んだ例や、高松まで売りに行ったという例がある。教職と漆掻きの仕事を兼業した例もある。また、輪島の漆器店は、佐治漆を買い、その漆で製造した漆器を売りに来ていた。「輪島講」という形態で地元に根付き、漆器製品を販売していた。佐治における「輪島講」は、平成10（1998）年ごろまで続いた。太平洋戦争中は国策により漆木の伐採が行われ、戦後は合成漆や合成塗料の発達と普及、プラスチックの普及、中国産漆の輸入の増加などの要因により国産漆は減少の一途を辿っていった。また、若い世代の労働力の流失など、こうした諸条件が重なり、昭和40（1965）年を境に佐治の漆掻きは廃れて行った。鳥取の漆器は、昭和40年代まで生業として続けていた職人も数人存在していた。佐治漆は、加瀬木を拠点に昭和15（1940）年ごろに漆組合が結成され組織的に流通を行っていくが、昭和30年代に解散する。

（２）江戸中期における佐治漆の生産地

江戸時代に描かれた佐治地域の古地図（図１）を見ると、加瀬木、加茂、余戸の三つの地域で多くの漆畑があった。江戸時代の生産量の記録（表１）からも同様の傾向がみられた。図１を色分類した土地利用図（図２）を作成した。漆畑が町全体の面積の半分を占めていた。また、地質図（図３）から、加瀬木、加茂、余戸の周辺は地すべり地形であることが分かった。周囲は急斜面だが地すべりによって段々畑が作りやすくなったと考えられる。

（３）現在の職人の継承

現在は職人のＨ氏が作品制作の傍ら、文化の継承を目的として、漆の研究や漆畑の復興に従事し、そのために自ら漆掻きも行う。また、漆塗り教室の開講、地域の学校での講演やワークショップも行っている。

４．考察

佐治町では江戸時代に漆生産が栄えており、太平洋戦争を経て減少しつつも昭和40年まで生産が続いていた。生産が止まってしまったことには科学技術の発展や国際化により漆の需要が下がり、職人が減少していったことが理由として挙げられる。

地質図から生産が盛んであった地域の特徴を見ると、漆の栽培条件として三郡変成岩の地質にあることに加えて，地すべり地形であることが考えられる。漆の研究や漆畑の復興に従事する職人がいるものの、数少ないことから、復興のためにはより多くの人が漆に関わっていくことが重要である。

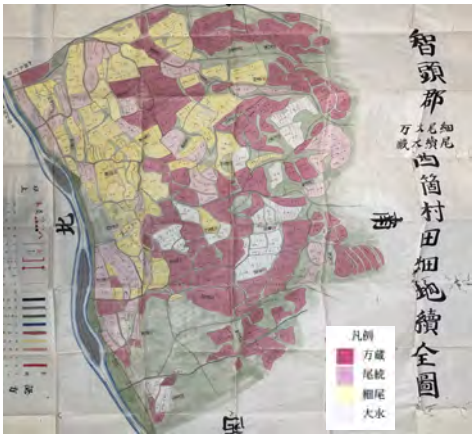

図１　加茂村の田畑地続全図（1844年）

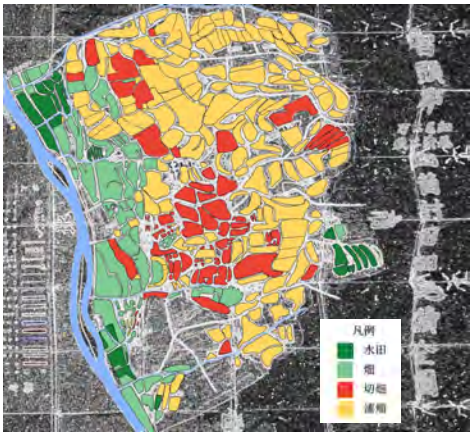

図２　加茂村の土地利用（1844年）

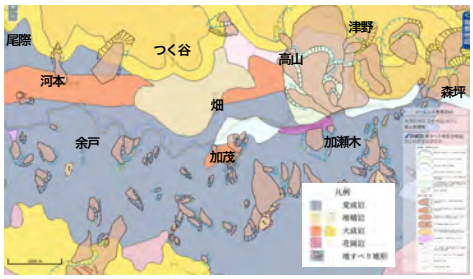

図３　佐治町の地質（産総研シームレス地質図による）

表１　佐治の漆掻きへの聞き取り

質問	答え
年齢	91歳（昭和6年生まれ）
初めて漆掻きをしたのはいつか	わからん
どうして漆掻きを始めたのか	親父がやっとったから
仲谷さんの子供は何をやっていのか	鳥取の教員を退職してヤはあり仕事をしている。
仲谷さんは子供と漆掻きをしていたのか	していなかった。手伝は漆にかぶれるから
仲谷さんは戦争に行ったのか	仲谷さんも親父も行っていない。若りに戦争に行った人は居った
戦争中に国からうるし生出せとは言われなかったのか	言われなかった。個人経営だったからな？
漆掻きの時期はいつか	6～10月ごろ
雨が降った時はどうしていたか	雨が降っている時に限らず漆の木が傷つくから漆掻きはやらなかった
シカやイノシシの害害はあったか	居った。頻繁にいた
どこで作業していたか	漆は神様のようなものだから。家の前で作業していた
木は何をしていたのか	夏に全部幅1センチ40cmくらいに木を切って木につけて本にけしめ海浄をする。 二十世紀梨の栽培
漆を使ったり木材として使ったり樹脂にしていたか	漆は大事なものだからもったいない 木材として使ったり、幅廣にもしていない
作った漆を自分たちで使っていたか	作った漆は全部に使っていた
漆と漆掻きをしていたのか	親父とな
兄について	よく田舎に行っていた。姉を見つけた
奥さんは何をしていたか	漆にはかかわらず、家事をしていた
身の回りの漆掻き職人は誰	仲谷さん、兄、父、西尾東さん、長谷東さん。
鳥取のどこで漆器が作られていたか	吉岡：あんまりいなかった 倉吉：職人がいた 津野：少なかった 高山（田舎）：もっこちょこいと 福部：職人がいた 加茂：親父が行っていた。毎日通うから山に泊まる 岩美：職人がいた 鳥取：仲谷さんも漆掻きに行っていた 佐治：仲谷さんも漆掻きに行っていた ※高山（田舎）はいない。仕事が違う（農作） ※村によって漆掻が違った（赤ぬか、段々か）
漆の根がはいつまでもったか	最後まで
何を塗っていたか	知らんうちと言ったらあの皮肉を塗っていた。 ※木鞘の布で塗っていた
どこに漆を売っていたか	明治時代に個人的に大阪の上本町2丁目のかんかけ（商神）に売りに行った。 佐治から鳥取、鳥取から山陰線で大阪まで 昭和の時代に東京で自分が知れないかの記憶で知れなかった。 行きの途中で漆をこぼして仲谷さんが涙にかぶれた。警視庁から呼び出されたが、なにもかぶれない。
大阪での値段はどのくらいか	高い1000円九の初ハセンキロ（？）を鳥取に送った
大阪での漆の値段	知らで買ったように高いと思った値
加瀬木に木地屋はいたのか	いなかった
昭和16年の加瀬木の火事について	仲谷さん（漆職人） 漆器屋だったんもあって焼失した 下の本家に避難した 親父がたいへん苦労した。
佐治には何があったか	布屋、酒屋、薬屋があった。
ヒノキや杉が植えられたのはいつ	こっち側になってから

参考文献
谷上嘉典(1994)『鳥取民俗懇話会会報1』鳥取民俗懇話会
谷上嘉典(1996)『鳥取民俗懇話会会報2』鳥取民俗懇話会
中村秀司・石橋優実・広富愛奈・山根京子　(2022)鳥取県東部地域の漆産業における継承の課題，2022年度日本地理学会秋季大会一般発表
橋谷田岩男(2018)『鳥取民俗懇話会会報11』鳥取民俗懇話会
橋谷田岩男 2016.鳥取漆器・佐治漆の西安と流通の変遷-鳥取県東部地方（因幡地方）を事例として-.早稲田大学卒業研究集 2016・2017年度:1-51.
社団法人林原共済会 (2000)『漆-漆掻きに生きる職人の暮らし-』日本のうるし掻き保存会 編
日本漆掻き技術保存会
山本勝巳(2008)『漆百科』298貫，丸善出版
安嶋是晴(2020)『輪島漆器からみる伝統産業の衰退と発展』185貫，晃洋書房

表２　江戸時代における佐治町内の漆の生産
（中村ほか2022による）

村	智頭郡下構村々御高帳・物成・諸訳物覚（1799年）			田畑地続全図（1844年）
	（米）石/斗/升	リットル換算	順位	漆畑の有無
菅谷	－			未調査
小原	－			－
河地	－			未調査
須賀	－			－
吉市	－			×
大呂	－			×
森坪	1/7/40	378.82	10	－
加瀬木	10/7/13	1953.63	1	○
高山	0/0/71	128.08	14	○
津野	0/0/23	41.49	15	×
福部	0/1/75	153.33	13	○
万蔵	3/3/71	773.37	5	○
大水	6/2/74	1251.01	3	○
高瀬（月）	（資料欠）			○
畑	2/1/35	441.96	8	－
春谷	1/7/62	418.51	9	○
細尾	3/4/2	816.94	7	○
川本	3/3/50	685.48	6	－
余戸	8/3/59	1803.67	2	○
尾際	5/7/53	1123.63	4	－
仲	1/3/58	339.13	11	－
新屋	0/7/78	266.98	12	○

鳥取（4名）			岩手（14名）				輪島（5名）		
Y	N		名前	I.S	S.H		名前	K.K	S.K
		1912	T01			1912	T01		
		1913	T02			1913	T02		
		1914	T03			1914	T03		
		1915	T04			1915	T04		
		1916	T05			1916	T05		
		1917	T06			1917	T06		
		1918	T07			1918	T07		
		1919	T08			1919	T08		
		1920	T09			1920	T09		
		1921	T10			1921	T10		
		1922	T11			1922	T11		
		1923	T12			1923	T12		
○		1924	T13	○		1924	T13	○	
		1925	T14			1925	T14		
		1926	T15 S01			1926	T15 S01		
		1927	S02			1927	S02		
		1928	S03			1928	S03		○
		1929	S04			1929	S04		
		1930	S05			1930	S05		
	○	1931	S06		○	1931	S06		
		1932	S07			1932	S07		
		1933	S08			1933	S08		
		1934	S09			1934	S09		
		1935	S10			1935	S10		
		1936	S11			1936	S11		
		1937	S12			1937	S12		
▽		1938	S13	▽		1938	S13		
		1939	S14			1939	S14		
		1940	S15			1940	S15		
		1941	S16			1941	S16		
		1942	S17			1942	S17		
		1943	S18	※独立		1943	S18		
		1944	S19	※北支派遣要		1944	S19		
		1945	S20	※上海		1945	S20		
		1946	S21	※浄法	▽	1946	S21		
		1947	S22			1947	S22	▽	
		1948	S23	※日本漆株式会		1948	S23		
※息子が生ま		1949	S24			1949	S24		
		1950	S25			1950	S25		▽
		1951	S26	※解散		1951	S26		
		1952	S27			1952	S27		
		1953	S28			1953	S28		△
		1954	S29	※～s36青森津		1954	S29		
※高松に漆を		1955	S30			1955	S30		
		1956	S31			1956	S31		
		1957	S32			1957	S32		
		1958	S33			1958	S33		
		1959	S34			1959	S34		
※この頃、京		1960	S35			1960	S35		
		1961	S36			1961	S36		
		1962	S37			1962	S37		
していた。（		1963	S38			1963	S38		
		1964	S39			1964	S39		
△		1965	S40			1965	S40		
		1966	S41			1966	S41		
		1967	S42		青森県	1967	S42		
		1968	S43			1968	S43		
		1969	S44			1969	S44		
		1970	S45			1970	S45		
		1971	S46			1971	S46		
		1972	S47			1972	S47		
		1973	S48			1973	S48		
		1974	S49			1974	S49		
		1975	S50	※組合を結成		1975	S50		
		1976	S51			1976	S51		
		1977	S52			1977	S52		
		1978	S53			1978	S53		
		1979	S54			1979	S54		
		1980	S55			1980	S55		
		1981	S56			1981	S56		
		1982	S57			1982	S57		
（掻き子）が		1983	S58			1983	S58		
		1984	S59			1984	S59		
		1985	S60			1985	S60		
		1986	S61			1986	S61		
		1987	S62			1987	S62		
		1988	S63			1988	S63		
	△	1989	S64 H1			1989	S64 H1		
		1990	H2			1990	H2		
		1991	H3			1991	H3		
		1992	H4			1992	H4		
		1993	H5			1993	H5		
		1994	H6			1994	H6		
		1995	H7			1995	H7		
		1996	H8			1996	H8		
		1997	H9			1997	H9		
		1998	H10			1998	H10		
		1999	H11			1999	H11		
		2000	H12			2000	H12		
		2001	H13			2001	H13		
		2002	H14			2002	H14		
		2003	H15			2003	H15		
		2004	H16			2004	H16		
		2005	H17			2005	H17		
		2006	H18			2006	H18		
		2007	H19			2007	H19		
		2008	H20			2008	H20		
		2009	H21			2009	H21		
		2010	H22			2010	H22		
		2011	H23			2011	H23		
		2012	H24			2012	H24		
		2013	H25			2013	H25		
		2014	H26			2014	H26		
		2015	H27			2015	H27		
		2016	H28			2016	H28		
		2017	H29			2017	H29		
		2018	H30			2018	H30		
		2019	H31 R1			2019	H31 R1		
		2020	R2			2020	R2	現在△	
		2021	R3			2021	R3		
		2022	R4			2022	R4		